全国海運組合連合会
青年経営者意見交換会　ｉｎ　東京

全国海運組合連合会（全海運）は２０２３年１０月１７日（火）、東京都千代田区にあるKKRホテル東京に於いて青年経営者意見交換会を開催した。

今年度新設した全海運の青年部ワーキンググループ※主催のもと、今回、初めて関東地区（関東沿海海運組合）が担当となり舵を切った。当日は、全海運の正副会長ほか、日本内航海運組合総連合会（内航総連）の各事業部長、他団体に加盟している青年経営者（概ね５０歳以下）など約１００名が出席した。

内航総連の各事業部長

全海運　会長・副会長、青年部 WG 座長・副座長

※　■ 全海運　青年部ワーキンググループについて ■

全国の満５１歳未満の会社経営者・管理者・社員等を「青年部」とし、その青年部をワーキンググループとして全海運に紐づけ、今後の内航海運を担う若手の意見交換の場として活性化させる。座長の四海連　渡邉慶太氏（三洋汽船（株）代表取締役社長）、副座長の中海連　古中洋平氏（井原海運（株）取締役）と委員９名から構成されており、定期的に会議・意見交換会を開催し将来の内航海運の為に精力的に活動している。

座長：四海連　渡邉氏

副座長：中海連 古中氏

本意見交換会は二部構成で開催され、第一部はゼストの世古口学社長による「船員の勤怠・健康管理ソリューション紹介」をテーマに講演が行われた。

その後、第二部において「内航総連の剰余金の使い道について各地区青年部が民法放送にて

人気俳優が司会を務めて一世を風靡した『マネーの虎』を模倣し、『内航総連マネーの虎』と題して内航総連の船員対策チャレンジ事業の案を提案する形」で四国、静岡、中国、九州、関東の順番で各地区の青年経営者代表５名から船員対策事業についてプレゼンが質疑応答を含む持ち時間２５分で行われ、藏本会長、村田青年部ＷＧ担当副会長、青年ＷＧ座長、副座長ら１０名が虎となって精査した。時折、虎たちより厳しい質問等を投げ掛ける場面もあったが各地区の代表らは堂々としたプレゼンを繰り広げた。

【司会】

関東沿海　青年部
櫻井弘紀青年部副部会長（二光商運代表取締役社長）

関東沿海 櫻井青年部副部会長

【プレゼン発表者及び企画案】

四海連　青年部
福村和哉青年部委員長（三福海運専務取締役）
・「船員の婚活支援プロジェクト」について提案。

四海連 福村青年部委員長

静岡県内航海運組合
永田桐哉氏（東洋海運代表取締役）
・「船員版ジョブカード制度の導入（準備）」について提案。

静岡　永田氏

中海連　青年部
岡本将治青年部副委員長（岡本海運部長）
・「児童擁護施設の児童に向けた進路支援」について提案。

中海連 岡本青年部副委員長

九海連　青年部
杉本憲彦青年部部会長（辰和海運代表取締役）
・「マーケティング調査」について提案。

九海連 杉本青年部部会長

関東沿海　青年部
村松利樹青年部部会長（三久貿易代表取締役専務）
・「海運業におけるブランディングプラン」及び
「福利厚生の充実による船員確保、離職の防止」の
２つについて提案。

関東沿海 松村青年部部会長

本意見交換会の最後に村田青年部ＷＧ担当副会長は青年部のプレゼンを聞いて「初めは熱い思いだけでは何もできないと思ったが、熱い思いでも何かできそうだという期待に変わった」とコメントした。

関東運輸局　中川海事振興部長

全海運　藏本会長

その後、会場を移して懇親会が開かれ、関東運輸局より中川海事振興部長、野村海事振興部次長並びに大熊海事振興部貨物課長をお招きし、中川海事振興部長よりご挨拶、続いて藏本会長よりご挨拶及び乾杯のご発声で幕を開けた。

第二部プレゼンテーションの順位が発表され、中海連青年部の「児童擁護施設の児童に向けた進路支援」が最高得点を獲得し、会場が大いに盛り上がった。

発表された企画案の中で、全海運理事会で承認を得たものについては正式に内航総連へ申請される予定としており、見事「マネー成立」となれば大変喜ばしいことである。

懇親会の最後には、次回開催地（九州地区）へバトンの受け渡しが行われ、九海連 杉本憲彦部会長より締めのご挨拶及び一本締めにて閉会した。

全海運の青年部ワーキンググループが今年正式な委員会として発足して初めての意見交換会で且つ初のプレゼンテーション方式による開催であったが、多くの方に出席いただき、各位協力の下、円滑に進行し滞りなく閉会した。

【懇親会の様子】